

日本

貿易統計（2019年9月）

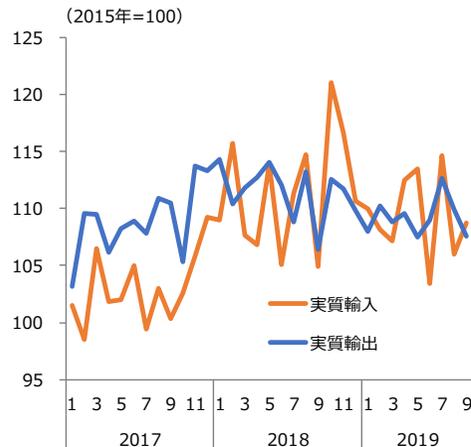
－実質輸出は減少継続、アジアに加え米国向けも悪化－

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

03-6858-2717

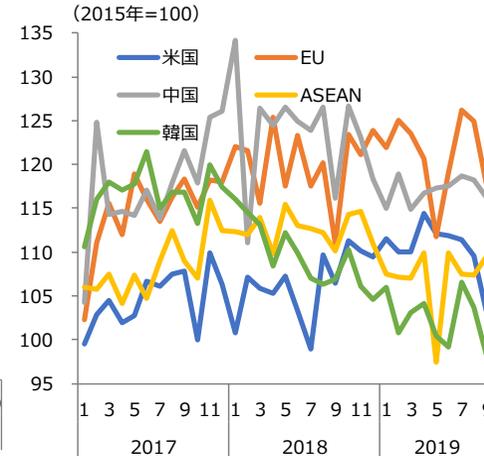
1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

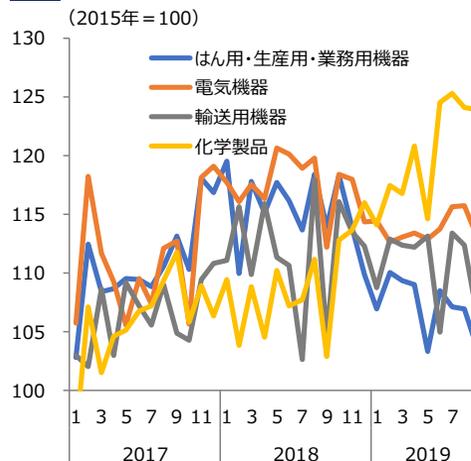


評価ポイント

今回の結果

- 19年9月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲2.1%、実質輸入は、前月比+2.6%となった。貿易収支（季節調整値）は、▲972億円と、15ヶ月連続で赤字。
- 四半期ベースでは、実質輸出（当社による季節調整値）は前期比+1.3%と2四半期ぶりのプラスとなった。実質輸入は前期比0.0%と横ばい。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国別で見ると、ASEAN（前月比+1.9%）以外は減少した。米国（同▲5.6%）は、輸送用機器の減少継続に加え、はん用・生産用・業務用機器が減少に転じ、全体を押し下げた。米国向け輸出は19年半ばをピークに減少傾向にある。EU（同▲5.7%）も、輸送用機器、はん用・生産用・業務用機器の減少が全体を押し下げた。中国（同▲1.6%）は2ヶ月連続の減少となったが、2019年以降横ばい圏内で推移。韓国（同▲5.2%）は、7・8月は持ち直したが、減少傾向にある。

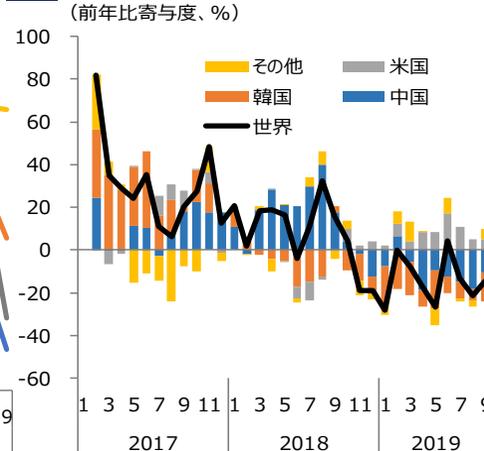
3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 半導体製造装置の実質輸出



- 半導体製造装置の実質輸出は、前年の高い伸びからの反動もあり前年同月比▲14.5%と3か月連続の減少。米中貿易摩擦や半導体関連需要の調整の影響から、中国向けや韓国向けの減少が続いている。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、緩やかな減少が継続すると予想。日米貿易協定交渉は合意し、自動車・自動車部品の追加関税は回避された。一方、米中貿易協定は難航している。米国の対中関税第4弾の影響顕在化することから、米中両国の成長下振れが予想される。
- 半導体関連は、米国による中国ハイテク製品排除の動き、日韓対立の影響から、半導体関連輸出の底入れは20年前半にずれこむ可能性が高まっている。
- さらなる下振れリスク要因として、①米中・米欧貿易摩擦の一段の激化、②中国をはじめとする海外経済のさらなる減速、③一段の円高の進行、が挙げられる。